

2026年度 亀田医療大学大学院入学試験問題 出題意図

ウイメンズヘルス・助産学

1. 女性の心身の特徴や、現代女性のライフスタイルの変化について、母性看護学で学習した基本的な知識を備えているかを評価する。
2. 生涯にわたる女性の健康支援について、思考力・創造力とそれらを具体的に表現する力がどの程度あるかを評価する。

看護管理学

問題 1

看護診断が日本に導入されておよそ 30 年以上が経過している。米国で開発された看護診断を用いる際に、それぞれの診断名や要因に異なる文化的背景があることに留意して用いていくことが指摘されている。その後、電子カルテの導入とともに、看護診断は定着し、多くの病院で導入されている。その一方、記録の電子化、入退院の短縮化に伴い、長期的視点での看護過程（看護診断）には、様々な問題があることが推察される。医療の変化の中で、看護診断の活用において看護職がどのような問題意識をもっているか問うことにした。

問題 2

看護師が倫理的課題を考えることは、単なる知識ではなく、看護師として「どう生き、どうケアするか」といった看護職としてのアイデンティティに関わる実践である。そのため看護管理者として自身の職場の倫理的課題を把握し、その課題に自身がどうアプローチするかを考えることは、看護管理者の重要な課題と考えられるため、本題を問うことにした。